

## 「行きたい大学」選び 6つのコツ

「大学進学を目指しているけれど、志望校をどう選んでいいかわからない」と悩んでいる人はいないだろうか。いろいろな観点から調べてみると、今までまったくノーマークだった大学や学部・学科に興味をひかれることもあるかもしれない。「蛍雪時代」などの進学情報誌やインターネットを利用し、志望校について考えてみよう。

### 1. 学びたい学問がある学部・学科で選ぶ

大学には多種多様な学部・学科がある。学部・学科のコース説明やカリキュラムの説明から、自分の学びたいことをイメージしてみよう。また、同じ大学に併設されている別の学部・学科から、新たな興味が生まれるかもしれない。最近では、大学ごとに学べる学問が細分化されており、より学生が学びたいことを追求して勉強できるようになっている。気になった学部・学科を軸に複数の大学を比較し、「これは面白そう」「やってみたい」と思えることを見つけよう。

### 2. 卒業後の進路・取得できる資格で選ぶ

大学卒業後の進路をざっくり分類すると、①企業や各種団体への就職、②大学院への進学、③スペシャリストの3方向に大別できる。「卒業後の進路」欄を見れば、①のそれぞれの学部からどのような企業・団体へ進む人が多いのかがわかる。また、③はいわゆる医師、歯科医師、看護師などを目指す医療系の学部・学科系統や、教員養成系などのことである。学部・学科のカリキュラムが国家試験などの資格取得を目標にした構成になっているのが特徴だ。

### 3. 大学の場所（自宅か下宿か）で選ぶ

実家から通う場合は交通費が必要になるが、その他の生活費はかからない。ただ、遠すぎるのなら時間ももったいない。サークル活動やアルバイトをしたいという人もいるだろう。通学に要する時間はせいぜい片道2時間以内が限度と考えている大学生が多い。また、要注意なのは、大学の学年や学部・学科によってキャンパスが異なることだ。下宿する場合には、最初に必要な敷金・礼金や生活用品をそろえる費用のほかに、月々の家賃・光熱費・上下水道代なども必要である。

### 4. 大学の雰囲気・伝統・設備・環境で選ぶ

受験を検討している大学のオープンキャンパスに参加しよう。交通の便も確認でき、大学の施設や周囲の環境などそれぞれのキャンパスがもつ“空気感”がつかめるはずだ。また、大学には創立の経緯や建学の理念、独自の校風があり、それが自分に合うかどうかでも意外と大事である。

## 5. 学費で選ぶ

学費は国公立大か私立大か、また、私立大の場合は大学や学部系統によってかなり違って来る。大学受験に必要な費用（受験料や交通費）、入学後の生活費などもかかってくるので、事前に保護者と話し合っておこう。また、奨学金を考えている人は、各大学や地方自治体、育英団体などでさまざまな奨学金制度を実施しているので、志望する大学の条件や自分の状況に合う奨学金制度を見つけよう。

## 6. 入試（方式、科目、偏差値）で選ぶ（「蛭雪時代」を活用）

### ①「偏差値・難易度一覧」

偏差値の記載された成績表と偏差値データを照らし合わせてみよう。“今の偏差値で合格できそうな大学”ではなく、これからの伸びも見越して「今の偏差値+3~5」の大学を目標校として設定するのもいいだろう。

### ②「全国大学 入試科目・配点一覧」

国公立大は、共通テストと二次試験の配点比率が大学・学部や日程によって異なるので要注意。私立大の一般選抜は3教科型が中心だが、こちらの配点比率はまちまちだ。共通テスト利用方式では、国公立大と併願しやすい4~5教科型もある。受験科目は併願校もなるべく同じになるようにしよう。

### ③「全国大学 入試結果」

志望校選びには入試結果（志望者数、合格者数、競争率）も参考になる。前年に大きく志願者数が増えたところや合格者数を絞り競争率が高くなったところは、翌年には反動で敬遠される傾向がある。逆に、前年の競争率が低いと狙い目と見られて、翌年は志願者が増えることも多い。競争率の推移を見てみよう。

11月5日（土） 高2 進研記述模試 があります

### ① 模試の前…目標設定をしよう！

自分の志望校の目標点は？

〈参考資料〉

- ・進研模試デジタルサービス
- ・進研模試合格ライン 2022（青色の冊子）



### ② 模試本番

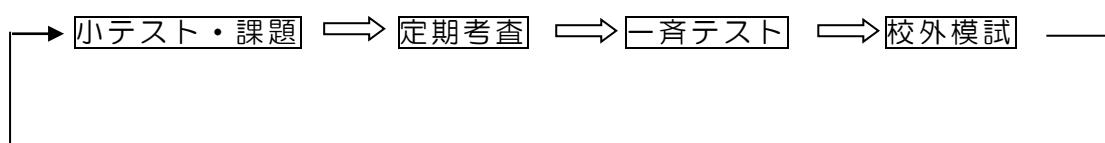
最後まで粘って問題を解こう。後で復習できるように、問題冊子に自分の答えをメモしておこう。

### ③ 模試の後…復習をすることが一番大事！

まずは解答冊子で答え合わせ。解説をきちんと読み、なぜできなかったのかをきちんと理解して、次回につなげていこう。苦手な分野を明確にし、高2後半の課題としてこれからの学習目標を設定しよう。

### ④ 模試成績の返却後

模試結果の分析と弱点分野の確認をし、志望大学合格ラインまでの得点差を縮めるための学習計画を立て、日々の学習に活かそう。



このサイクルを大切にしよう！